

教育の情報化に向けて

香川県中学校教育研究会情報教育研究部会長 細谷昌弘

e - J a p a n 重点計画・2003には「学校教育の情報化等」が盛り込まれています。そこでは、「必要なIT機器、ソフトウェア、コンテンツの充実を図るとともに、関連する諸施策を実施することにより、子どもたちがITの活用方法に慣れ親しみ、習熟することなどを通じて、子どもたちが情報を主体的に活用できるようにするとともに、すべての子どもたちにとって理解しやすい授業を実現する。その際、インターネット上の有害情報対策にも十分配慮する」としています。また、IT環境の整備では「2005年度までに、概ねすべての学校が高速インターネットに常時接続し、各授業においてコンピュータを活用できるように、すべての教室がインターネットに接続できるようにする。」IT指導力の向上では「2005年度までに、すべての教員がコンピュータ等のITを用いて指導することができるようにする」と明記されています。

以上のような教育の情報化施策が進められているとき、私たちの学校現場では何があるのかということ、毎日の授業や評価活動、校務、部活動、雑務におわれているのです。そんなことから、すべての教員がコンピュータ等のITを用いて指導できるわけではありません。しかし、その毎日の授業準備や校務の中にIT活用のヒントがあるわけです。2005年まであと1年ですから、先生方は今すぐに指導書をめくってみてください。IT活用ができる教材を見つけることから始めましょう。指導要領総則の中に「各教科の指導にあたってはコンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的に活用できる学習活動」を充実させなさいと書いてあります。たとえば美術科の中で、ネットワークを活用して、教科書には載っていないような美術品を、インターネットの美術館に出かけて鑑賞することも可能です。先生方が各教科の中で工夫して、子どもたちが積極的に活用できるような場面を作っていきましょう。このように、子どもたちに対して段階的に利用できるように場面を保證していかなければいけません。

一方、授業で利用できるコンテンツも、文部科学省、CECなどで開発され充実してきています。そのほかにも、企業や教育団体が様々なコンテンツを開放していますので、学校で利用できるものを整理してみましょう。そうすることで私たち教員も情報活用の実践力が身についていくのです。

つまり、次に大切なのは先生自身の情報、ネットワーク、メディアなどを活用するという力です。授業の中だけでなく、学校教育全体のいろいろな場面で積極的に情報を活用することを通して、自身の情報活用能力を向上させることが必要です。また、学校の中での研修会を積極的に開いたり、力を高めるための研修に参加したりするなど、自己研鑽が必要になります。自分自身の力量を高め、身につけた力を、子どもたちに対して指導する中で生かす方法について研鑽していく必要があります。そして教室で子どもたちに返していくことが大切です。

最後に、ご指導いただきました高松工業高等専門学校助教授の鹿間先生、藤澤先生、香川県教育委員会事務局主任指導主事の國木先生に対し深甚の謝意を表するとともに、本研究会会員の皆様のご活躍をお祈りいたします。